

目的 野口らによって見出されたナフチオメートTは、現在、抗白癬治療剤として広く利用されている。この薬剤は、長期に塗布しても刺激性及び発癌性が認められないことから極めて安全性の高い選択性薬剤と云われている。この薬剤を一定量有機溶剤に溶かし綿布に含浸させ抗白癬用の抗菌布を作った。この抗菌布について洗濯強度（洗濯数による抗菌力の変化）又染色による抗菌活性の変化を検討した。

方法 ナフチオメートTは、野口らの方法に従って合成したものを用いた。薬剤は塩化メチレンに、1~2000 ppm濃度の範囲で溶解した。綿布を浸漬し、これを乾燥させ、合成洗剤を用い、1~10度洗浄（1度は40回のみみ洗いに相当）その効力を抗菌活性試験により判定した。白癬菌 *Trichophyton rubrum* (IFO 5810) を試験菌とした。抗菌試験はシャーレに2%寒天を流し入れ、この寒天上に、あらかじめ殺菌しておいた10×10 mmの試験布を置き、この上にSabouraud寒天培地を流し入れた。次に、この試験布の上に白癬菌の菌糸ディスクをのせ、28°Cで1週間培養した。同時に対照として薬剤無処理の布について同様の培養を行ない試験布の生育率を算出した。又綿布をDYLON COLD A 13と媒染剤を用いて染色した場合の抗菌性活性の影響について試験した。

結果 抗菌布の洗浄試験で耐え得る有効薬剤濃度は、500 ppm以上であった。薬剤を含浸させた綿布は、1度の洗浄で含浸薬剤の50~60%を消失するが、2度以後10度までの洗浄による損失は6~7%程度であった。薬剤を一定濃度含浸させた後染色した綿布も同様の顕著な抗菌活性を示した。